

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦) (公表可否)	職名	所属
ミツイ サヤカ 三井 さや花	女	1983年	専任講師 (特任)	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	修士(学術)	専門分野	日本語教育学、社会言語学	
学歴	2006年 3月 新潟大学人文学部情報文化課程 卒業 2012年 3月 一橋大学大学院言語社会研究科(修士課程・日本語教育部門) 修了			
実務経験	2006年 4月 国立大学法人 信州大学 国際交流課 係員(～2009年3月) 2009年 4月 文部科学省大臣官房国際課 行政実務研修生(信州大学総務部人事課付)(～2010年3月) 2018年 7月 国立大学法人 山梨大学 国際交流センター 非常勤講師(～現在) 2020年 4月 山梨英和大学 非常勤講師(～2021年3月)			
受賞歴				
所属学会	2011年 4月 日本語教育学会 2012年 4月 一橋日本語教育研究会			
特免資格 等・・・				
e-mail	mitsuis@yamanashi-eiwa.ac.jp			

目 次

○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

○添付資料

完全リスト(研究実績、競争的資金採択課題、学会等発表・役員参加、共同研究・受託研究の実績、
学内委員会・作業部会活動実績)

サンプル(教育能力、代表的なシラバス、教育改善活動、大学院生指導、アドバイザー活動実績、
後進育成活動実績、社会貢献活動)

評価結果(教育能力に対する評価、研究能力に対する評価)

専門的成果のエビデンス

教育業績

教育理念、方針、方法	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対する日本語教育においては、キャリアパスを含む大学生活全般に必要な日本語力を獲得できるよう、各人のニーズに合わせたきめ細やかな教育を目指す。 ・日本語教師養成プログラムおよび日本人学生への教育においては、日本語教育の知識や手法の教授だけにとどまらず、国際理解や多文化共生の視点から真に国際的な人材を育成することを目指す。
教育能力	<p>(1)教育方法実践例 これまで、ゼロ初級から上級までのすべてのレベルで、日本語非母語話者に対する日本語教育を行ってきた。これまでに教えた学習者の国籍は20カ国以上に及ぶ。対象も大学の学部生、大学院生、交換留学生、研究生、研究者、大学以外ではALTや家族滞在者など、多様な背景をもった学習者を担当してきた。学習者の母語や共通語にもよるが、英語での文法説明や指示が授業運営上有効だと判断した場合は、英語を媒介語として使った指導をすることもある(英語で研究を行う大学院生を対象にする授業が多い)。また、台湾に2年半程滞在したことがあり、現地で日本にルーツを持つ子供たちへの継承語教育も行った。 本学のゼミナールでは、日本における多文化共生社会を踏まえ、日本語学、日本語教育学、社会言語学を中心とした教育も行っている。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等 (講師講演) 「のぞいてみよう、オンライン授業」山梨日本語ボランティアの会 2022年度第4回研修会(2022年12月)</p> <p>(口頭発表) 「日本語教科書の選び方とお役立ちサイト」山梨日本語ボランティアの会 2014年度第3回会員相互研修会(2014年11月)</p> <p>「投稿論文の通し方—テーマの発見から論文化の流れ—」一橋大学庵ゼミ主催特別講演会(2012年12月)</p>
担当授業科目	<p>2023年度</p> <p>「日本語1bB」「日本語1dB」「日本語スキル1G/2G」「日本語教授法1」 「日本語教授法2」「日本語教授法演習」「専門ゼミナール1/2/3/4」</p>
代表的シラバス	<p>日本語教授法1(抜粋)</p> <p>この授業は日本語教師養成課程に関する必修科目です。将来、日本語教師や日本語ボランティアなどとして、日本語を母語としない日本語学習者を指導する際に必要とされる専門的な知識と技能を習得できるように授業を進めます。 授業では日本語教育の基礎的な知識や日本語教育の教え方の基本について指導します。具体的な教授方法とともに、初級前半に対する授業のたまかな流れなどが理解できるようにします。教師の解説だけではなく、受講者自らが担当課の構成や文型、例文等の分析を行い、調べた結果をクラス内で発表してもらいます。</p>
教育改善活動	<p>2021年後期より、インドネシアのビナ・ヌサンタラ大学(BINUS)の日本語会話クラブと連携し、日本語教育に興味のある学生が言語交流に参加できるようにした。この交流事業では、BINUSの日本語学科に在籍するインドネシア人と日本のいくつかの大学の学生がZoomでつながり、週に1回日本語や英語をつかって会話をする。本学の学生は日本語教師養成プログラムの学生が毎年数名、活動に参加し、国際交流活動を行っている。</p> <p>2022年後期の日本語教授法演習(日本語教育の実習クラス)では、教室内の模擬授業だけにとどまらず、インドネシアのBINUS大学日本語学科1年生(40名以上)とzoomでつなぎ、2回の交流授業を実施した。日本語教師養成プログラムで培った知識と経験を活かし、実際に海外にいる学習者に日本語を教える貴重な経験となった。</p>
教育能力に対する評価	<p>(1)学生による授業評価 2022年度における授業評価では、「満足している」「学びがある」などの評価が大多数を占めた。特に専門性の高い専門ゼミナールや日本語教師養成プログラムの授業では、学習者は積極的に学び、日本語教育や日本社会における多文化共生について学びを深められたとの声が聞かれた。</p> <p>(2)同僚教員等による授業評価</p>

研究業績

研究の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・年少者日本語教育及び母語教育の重要性をベースとしたシラバスや教授法の開発。公立学校教員養成課程における外国籍児童生徒に関する問題の啓発。 ・日本語文法、特に文章の結束性について、学習者の誤用分析から研究や調査を行い、日本語教育の現場に生かす。 ・日本人学生の多文化に関する意識調査や国際理解教育の開発。 	
研究経歴	2011年	「在日定住ブラジル人の子どもと言語教育—公教育での母語・継承語教育の導入を目指して—」(大学院修士課程での研究)
	2013年	「英語母語話者による日本語名詞の複数形の産出について—英語と日本語の複数認識のずれ—」学会誌論文として公開(査読あり)
	2021年	大学内における多文化共生に関する知見の収集と啓発
	2022年	海外の大学との教育及び研究協力体制の樹立 研究論文の執筆2本(内1本は査読あり・単著、1本は共著)
研究実績	<p>(1) 著書</p> <p>(2) 学術論文</p> <p>三井さや花(2023)「複数を表す接尾辞「たち」の誤用分類の試み—日本語学習者の作文にみる複数形の誤用系統—」『一橋日本語教育研究』11号 pp.75-89</p> <p>三井一希・三井さや花(2023)「保護者向けプリント資料に付加する「アクションアイコン」の検討」『教育実践学研究』山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 No.28 pp.285-294</p> <p>三井さや花(2013)「英語母語話者による日本語名詞の複数形の産出について—英語と日本語の複数認識のずれ—」日本語教育学会『日本語教育』154巻 pp.115-122</p> <p>(3) その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)</p> <p>(報告書)</p> <p>西谷まり、三井さや花、渡辺藍、イ・ドンホン(2012)『2011年度日本語実習報告書—ポアジチ大学日本語講座—』一橋大学大学院日本語教育研究会</p> <p>西谷まり、三井さや花、増田麻美子ら(2011)『2010年度日本語教育実習報告書 北京大学日本語学科』一橋大学大学院日本語教育研究会</p>	
競争的資金採択課題		
学会等発表・役員参加	2022年	9月 口頭発表: 三井さや花(2022)「複数を表す接尾辞「たち」の誤用分類の試み」2022年秋季一橋日本語教育研究会
	年	月
	年	月
	年	月
	年	月
	年	月
	年	月
受託共同研究の実績	年	月
	年	月
	年	月
	年	月
	年	月

大学院生指導	
対研究する能力に	

サービス活動業績

学内委員会・等活動実績	2021年 4月 国際交流室運営委員(2022年3月まで)
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
アドバイザー活動実績	
後進育成活動実績	
社会貢献活動	<p>(1)講演会</p> <p>2022年 12月 山梨日本語ボランティアの会 2022年度第4回研修会での公演</p> <p>2018年 12月 山梨日本語ボランティアの会 2018年度第2回研修会での講演</p> <p>(2)出前講座</p> <p>年 月</p> <p>(3)公開講座</p> <p>年 月</p> <p>(4)学外審議会・委員会等</p> <p>年 月～</p> <p>(5)その他</p> <p>2019年 3月～ 山梨日本語ボランティアの会 ウェブサイトの制作と管理</p>

成果と目標

専門的成果	<p>①留学生への日本語教育では、グループワークや共同編集などの能動的な活動を取り入れ、大学で使用する日本語や学術的なスキルの習得を促した。</p> <p>②日本語教育学に関連する専門分野の授業では、各自が問題意識を持ちながら日本社会における課題や多文化共生に関する知識を多角的な視点で深めることができた。</p> <p>③海外の大学と連携し、日本語教育の実践の場を学生に提供することができた。</p>
専門的目標	<p>①学内の留学生と日本人学生の交流促進</p> <p>②日本語教育に興味のある学生への実践の場の設定、海外の日本語学習者と学生の言語交流及び国際交流</p> <p>③日本語学・日本語教育学分野における研究とその成果発表</p>

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------